

遊歩道における景観に配慮した施工

愛媛県土木施工管理技士会

白石建設工業株式会社

土木部

野田 良 将[○]

Ryouhei Noda

土木部

横井 博 隆

Hiroataka Yokoi

土木部

井上 良 司

Ryouji Inoue

1. はじめに

本工事は、愛媛県新居浜市における遊歩道機能修繕工事で、施工場所までは車で進入する事が不可能であった為、資材等の運搬は全て人力であり、非常に施工の困難な立地条件での工事であった。

工事概要

- (1) 工 事 名：遠登志遊歩道機能修繕工事
- (2) 発 注 者：新居浜市
- (3) 工事場所：愛媛県新居浜市
- (4) 工 期：平成26年3月3日～
平成26年3月31日
主な工種：石積工 1式

当現場は休日になると多くの人が遊歩道を利用している為、工事に当たっては周辺景観に配慮した修繕の実施が求められた。



図-1 着工前

2. 現場における問題点

発注者の意向である「周辺景観へ配慮した修繕」に対しては、監督職員との密な打ち合わせ、協議を要し、現場の施工にあたる事が課題とされた。

3. 工夫・改善点と適用結果

修繕した箇所は、過去にも雨水での崩壊が発生していたので、今回の修繕では、崩壊している箇所の撤去と合わせて今後修繕が必要無くなる様に石積みを通り石積みに変更し施工を行った。

図-1でも分かる様に、現状では非常に施工の難しい崩れ方をしていたので、施工を容易に行う為、崩れない石積みに施工する為に、一度石積みを通り崩壊部分より広く撤去する必要がある。

当現場は、遊歩道である為、車両・重機の乗り



図-2 撤去後



図-3 石積み状況

入れが不可能であった。その為作業全てを人力で行う事が必須事項であった。撤去作業・石積み作業の材料をロープで昇降しての作業が発生する為先ずは作業用の親綱を張ることが、当現場での重要なポイントとなった。

石積みの撤去作業では、撤去作業を行いながら石を大きさに選定し、後の石積み作業をスムーズに行える様に撤去・選定作業を行った。

練り石積みの施工は、周囲の石積みと極端な変化が無い様に、石の形状等を考慮して行った。

施工の際の目地材は石材の色に合わせる為に着色したモルタルを使用し、周囲に違和感を与えない様に施工を行った。また裏込め材は、過去の崩壊からも考えられる様に、雨水がストレス無く外に出て行けるように、現地での発生土砂を使用せずに単粒碎石を使用しての裏込めを行った。

石積みの天端付近では、多くの樹木が生えており、それらの根が、石積みを外へ押し出す様な形になっていたため当初発注者側からは、伐採してもよいとの事だったが、伐採してしまうと、周囲の景観を台無しにしてしまう事になるので協議し、樹木を1メートル程後ろに植え替えする事となった。周囲の石積みもあり非常に困難な作業であったが、植え替えが完了した際には、監督職員も植え替えを選んで良かったと、違和感のない施工が出来た。

また、撤去作業中に落石による歩道部の床版の破損が発覚し、石積み完了後に復旧を行った。同じ製品を使用したがる、やはり、復旧した床版が目立つ様な形になり、監督職員との協議により、復



図-4 石積み完了



図-5 完成

旧した床版の表面をウォーターブラストで表面を加工し、元の様な天然玉砂利の風合いを生かした柔らかな景観舗装を創出できた。

4. おわりに

当現場の様な、遊歩道や観光地等での工事は、周辺環境に配慮した計画がよりいっそう求められ、また、利用する人や地域住民の方々に対してのコミュニケーションの取り組みが非常に重要になってくる。今回の修繕工事は小規模な石積みの崩壊で収まり、人的被害等もなく、一般的な修繕工事だったが、今後予想される南海トラフ大地震等の大型災害時には、同じ修繕・補修工事でも、地域住民の方々の対応・要望も大きく変わり、間違いの無い迅速な施工が必要とされる。

今後も常にアイデアを持って、事業者、地域住民、施工業者が活発で建設的な議論を行っていき、みんなが納得しうる環境整備に貢献していきたい。